石巻専修大学

●「石巻専修大学」ホームページ● http://www.isenshu-u.ac.jp

代表電話番号
0225(22)7711
入試専用FAX
0225(22)7809

人間学部開設　理工学部改組

記念式典盛大に

人間学部の開設と理工学部の改組を記念した式典が５月25日、石巻専修大学で盛大に催された。

本学は「実践的な教育」を目標に掲げ、今年度から人間文化学科と人間教育学科を擁する人間学部を新たにスタート。理工学部では基礎理学科と生物生産工学科を見直し、地域の産業や自然環境とリンクする食環境学科と生物科学科を誕生させた。

式典には亀山紘石巻市長をはじめ石巻圏域の自治体や教育関係者、経済界などから約150人が出席。

坂田隆学長は「学部新設にあたっては皆さまから力強い支援をいただき感謝している」と式辞を述べた＝写真右上。

専修大学の松木健一常務理事のあいさつ、亀山市長の祝辞に続き、山崎省一人間学部長と吉原章理工学部長がそれぞれの学部・学科の特徴を紹介した。

最後に新学部・新学科の学生を代表して、人間学部人間教育学科1年次の大泉ひなのさん（宮城県石巻商業高）と理工学部生物科学科1年次の佐藤真帆さん（宮城県塩釜高）が抱負を述べた。

小学校の教諭を目指す大泉さんは「いろいろな人と交流し成長していきたい。震災で心に傷を負った子どもたちを精神的に支えていける先生になりたい」と話した。

また、佐藤さんは、幼い頃から生き物の観察が好きだった経験を話し「実習や実験を通して自然と接しながら学ぶ機会が多いと聞いて本学を選んだ。将来は動物にかかわる仕事に就きたい」と語った。

記念式典終了後、施設見学と祝賀会が行われ茶道部、合唱部、現代芸術研究会の学生たちが活動の成果を披露。石巻市雄勝町の「伊達の黒船太鼓」も勇壮な響きで祝賀ムードを盛り上げた＝同左上。

テニスインカレ女子単・複　和田さん出場

東北学生テニス春季トーナメント大会が5月1日から10日まで、仙台市の川内庭球場ほかで行われた。

硬式テニス部の和田咲良さん（経営4・宮城県泉館山高）が女子シングルスでベスト4、仙台大・川合麻里那さんと組んだ同ダブルスでも準優勝を果たした。

この結果、シングルスは4年連続、ダブルスは2年連続で全日本学生テニス選手権大会（8月14～27日、岐阜県・岐阜メモリアルセンター）の出場権を獲得した。

学生テニスの総決算にあたる今年、両種目とも本選からの出場となり、上位進出が大いに期待される。

海外学生と交流

パプアニューギニアから

6月、相次いで海外の大学生が本学を来校し、日本の文化や歴史を学ぶとともに、本学学生との交流を深めた。

6月18日、外務省の「JENESYS 2.0 及び北米地域との青少年交流」の一環として、パプアニューギニアの大学生13人が来校し、本学の学生たちと交流した。

一行は坂田学長を表敬した後、新設された人間学部の施設を中心に学内を見学。丸岡泰経営学部教授とゼミ生が、英語で東日本大震災の被災体験や石巻の観光情報などを紹介した。また、岡野知子国際交流センター長とゼミ生が折り紙や書道などの日本の文化を伝えた。

アメリカから

6月20日には、アメリカ合衆国カリフォルニア州立カリフォルニア大学ロサンゼルス校（以下UCLA）の学生ら25人が来校した。

これは、UCLAの名誉教授であるDr.Paul Terasaki氏の財団が主催した企画で、被災の現実を知るとともに、日本の文化や歴史を学ぶことが目的。坂田学長による講話が行われ、参加した学生たちは東日本大震災時の様子や本学の対応を熱心に聴講した。

支部懇談会は、学生生活や進路について大学が報告。引き続き行われた個別面談では、学業や課外活動、就職などに関する相談に対し、教員が丁寧に応じた＝同左。

また、希望者に対してキャンパス見学が実施され、会員らは開設したばかりの人間学部の施設をはじめ、図書館や森口記念館などを見学した。

地元伝統のサバだしで↓

経営・石原ゼミが考案

「石巻復興につなげたい」

「サバだしラーメンで地域創造」。経営学部の石原ゼミ（石原慎士教授指導）は、サバのあらで取っただしをスープにした「石巻飯野川発サバだしラーメン」を開発。石巻市北部、本学から約10キロ離れた飯野川地区の食堂で売り出し、大好評だ。

もともと飯野川地区ではサバのだしやサバ節を使う食文化があり、隠し味として使われていた。

ゼミ生は、その価値に着目し、2年前から地域経営者との連携による「石巻の食ブランドづくり」に向けて準備を進めてきた。

また、この活動は東日本大震災で打撃を受けた地域経営や産業の復興につなげたいという試みでもあった。

石原ゼミの研究テーマは「地域産業論」。〝まちづくり〟や〝地域ブランドの形成手法〟について実践的な考察を行っている。石巻の新たなブランドとして誕生した「サバだしラーメン」は、独特の風味や誕生秘話が話題となり、多くのメディアにも登場するようになった。

5月17日には石原ゼミ生10人が飯野川商店街でゼミナールを行い、食事処「亀鶴」で「サバだしラーメン」を食した。初めて口にした同ゼミ生新人の2年次生からは「おいしい」との声が上がった。

阿部里奈さん（経営2・宮城県貞山高）は「臭みがなく、あっさりしていて食べやすい。トッピングの『サバのつみれ』も工夫されていて絶品」と大絶賛。

▲　石原教授（右端）とゼミ生

↑人気ラーメンを開発

店主の佐藤宗雄さんは「サバだしラーメン」のスープは焦がしネギやニンニクでうまみを引き出している。評判を聞き、県外からも客が訪れるようになったと話している。また、石原ゼミ生も独自でラーメンを作り、商店街のイベントに出展している。佐藤さんは、「彼らは食べ物に対する感性が良い。その点が支持される商品開発につながっているのでは」と分析している。

「理論を実践しよう」が石原ゼミのモットー。石原教授は「今後も中長期的な視野でオリジナリティーある商品を開発したい」と学生たちに奮起を促している。

齋藤さんが優秀賞

自動車技術独創アイデアコンテスト

公益社団法人自動車技術会東北支部の学生自動車研究会主催の「第23回自動車技術独創アイデアコンテスト」が6月15日、宮城県産業技術総合センターで開催され、齋藤貴聡（たかあき）さん（理工3・宮城県中新田高）が優秀賞を受賞した＝写真。

齋藤さんは「自動車の遠隔操作」をテーマに、狭いスペースでも駐車可能になるスマートフォンを用いた遠隔操作のアイデアを発表。審査員から高い評価を受けた。

石巻支部懇も

育友会（阿部裕一会長）の定期総会と、支部懇談会（石巻会場）が6月16日、34組49人の会員が参加し、本学キャンパスで開催された＝写真右。

定期総会に先立ち、第1回常任役員・幹事・支部長会を開催。定期総会では、役員の承認を行った後、「2012年度事業報告」「2013年度事業計画」などを審議し、原案通りに承認された。

育友会総会を開催

13年度事業計画を承認